新日本保険新聞
（損保版）
第１～４月曜日発行
発行所　新日本保険新聞社
大阪市西区靭本町１丁目５－15
（郵便番号550-0004）
電話　(06) 6225－0550（代表）
FAX　(06) 6225－0551（専用）
購読料　１か月2420円
（消費税、送料込み）
©新日本保険新聞社 2023

シンニチ保険Web
www.shinnihon-ins.co.jp
購読者専用バックナンバー閲覧パスワード
wonderful
2023年4月3日 AMまで
※偶数月の第一月曜日正午ごとに変更

山梨代協

セキュリティの向上や被害防止対策で連携

サイバーセキュリティセミナーを開催

山梨代協（土屋契会長）は1月25日、サイバーセキュリティセミナーを開催し、山梨県警察本部生活安全捜査課サイバー犯罪対策室の坂本太氏が講演した。同代協と山梨県警は昨年1月に「サイバーセキュリティに関する協定」を締結し、サイバーセキュリティの向上やサイバー犯罪の被害防止対策で連携することとした。今回のセミナーはこうした取組みの一環として実施されたもの。

坂本氏

小俣氏

大切な情報預かる代理店

当事者意識を強く持つことが必要

サイバー犯罪の検挙件数は年々増加。近年目立つのがエモテットと呼ばれる電子メールによるウイルス感染で、2019年下旬頃から猛威を振いだし、昨年度は山梨県内でも多数の被害があったという。エモテットに感染すると、自分のメールアドレスが発信元となってそのパソコンのアドレス帳にある宛先にウイルスメールがばらまかれるといった特徴がある。

送信者を詐称した電子メールを送りつけたり偽の電子メールから偽のホームページに接続させたりするフィッシング詐欺もいまだに多くみられると坂本氏は指摘。最近はSMS（ショートメッセージ）で宅配業者や大手ECサイトを装ったフィッシングメールが送られてくるケースが目立つという。フィッシング詐欺への対策について坂本氏は「フィッシングサイトは精巧に作られているが、よく見れば偽物だと判別できる。ただ、時間がなくてあわてていたり急いでいたりしたときに、ついうっかりひっかかってしまうことがあるので注意してもらいたい」と呼びかけた。

実在する企業のホームページを模倣した偽サイト上から金銭や個人情報を搾取する詐欺にも注意が必要だと指摘。例えば「ゲーム機安い」といったキーワードで検索して上位に表示されたサイトが偽サイトの可能性もあるといい「大手検索サイトの検索結果を安易に信じないようにしてもらいたい」と注意を促した。

総じて、問題発生時には「自分だけは大丈夫」「今まで大丈夫だった」「盗まれて困る情報などない」といった正常性バイアスが働きやすいため、自分の判断に正常性バイアスがかかっていないかを常に意識することが必要だと強調した。

セミナー終了後、閉会の挨拶をした山梨代協副会長の小俣藤夫氏は「私たち保険代理店はお客様の大切な情報を預かっている。サイバーセキュリティへのリテラシーを高め、当事者意識を強く持つことが必要だ」と述べた。

水災に関するオンラインセミナー開催

損保協会東北支部と秋田代協が共同で

損保協会東北支部と秋田代協は1月13日、水災に関するオンラインセミナーを共同開催し、アウトドア防災ガイドのあんどうりすさんが「水災害から大切な人の命と生活を守るための知恵」をテーマに講演した。

あんどうりすさん

中條氏

セミナーは、秋田県民から寄せられた事前質問にあんどうりすさんが回答する形式で進行。2019年10月に発生した台風19号では、死者の3割が車で移動中の「車中死」だったことが話題となったが、こうした大雨時の車での避難方法について質問が寄せられた。

この質問に対しては「タイヤの三分の一が水に浸かると電気経路が壊れることがある。また、車が浮いてしまい制御不能になったり沈んで脱出不能になったりすることもある」と実情を説明したうえで、「車で避難するときは日の明るいうちに早めに行うことが重要だ」と述べた。

災害時に備えてどのような持ち物を用意しておくべきかという質問については、「(防災ガイドブックなどに書かれている持ち物を)すべて持っていきたいと思いがちだが、荷物を十分に持てずにまごついてしまうことがあるため、自分にとって大事なものをあらかじめチェックして用意しておくことが大事だ」と述べた。

また、バックを軽く背負えるコツとして「カバンの中身が揺れないようにする」「重たい物はカバンの上のほうに入れる」といった知識を紹介した。

当日はセミナーに先立ち、損保協会秋田損保会会長で損保ジャパン秋田支店長の中條美恵子氏が主催者を代表して挨拶し「水災害は他の災害とは違ってあらかじめ避難することが可能だ。セミナーで学んだ知恵を共有してきちんと避難できるようにしてもらいたい」と述べた。